

平成29年度 救護施設旭寮 事業報告書

生活保護法並びに法人の基本方針に基づき利用者の快適な生活及び自立を考慮しつつ、より質の高い福祉サービスを提供するべく下記の事業を行った。

1 運営及び設備

- (1) 施設運営及び利用者への福祉サービスの質の向上を図るため、関係機関及び団体等の研修会に可能なかぎり出席して資質の向上に努め、きめの細かいサービスの提供を図り、自主的共同生活を営みうる援助と支援の行き届いた運営を図った。
- (2) 職員研修会を行い職員の資質及び福祉サービス提供の向上に努めた。
また、毎月一回利用者と職員の全体会議を定期的に行い、利用者がよりよい生活が営めるよう環境作りに努めた。
- (3) 施設に対する理解と認識を高めるため、地元地域への会報の回覧、地域社会に施設機能等を開放するほか、その他あらゆる機会を通じ啓蒙宣伝に努め、地域との交流を行った。
- (4) 施設の規律秩序の維持と組織の一体性を欠かさないように毎朝職員連絡会議を行うと共に連絡を密にするため利用者職員全体の朝礼を行った。
- (5) 各種委員会（サービス向上委員会、地域広報委員会、安全対策委員会、研修委員会、給食委員会、地域移行支援委員会）を機能させ、また、ケース担当のチーム化を図り、よりきめの細かい支援、サービスを目指した。
- (6) 第三者評価を受審した評価結果を参考に提供サービスの向上に努めた。
- (7) 仮泊室の定員を2名とし下記の受け入れを可能な限り行った。
①福祉事務所等からの緊急一時保護並びに生活困窮者の受入。
②長野保護観察所からの緊急的住居確保・自立支援対策事業対象者の受入。
- (8) 施設整備
移転新築事業を進めた。

2 生活支援サービス

- (1) ケースワーク
個別支援計画により、身体的・精神的自立を目的として、個々の年齢・生活歴・障害程度・日常生活の状況等を考慮した、よりきめの細かい個別サービスを提供した。
- (2) 作業指導
労働の尊さと喜びを知り、施設内外への作業参加が自主的に行えることを尊重しつつ労働の価値とその喜びを体得し、自立・勤労精神の育成を図った。
- (3) 教養娯楽
音楽・運動に親しみ、情操と健康の向上に努め、スポーツ・舞踊・歌・ゲーム等を運動会又は、誕生日会、忘年会を中心とした行事に向け支援した。
- (4) クラブ活動
個々の能力に応じた活気に満ちた生活が送れるように、各自希望するクラブ活動に参加できるように支援した。
- (5) 機能回復、減退防止に対する配慮
高齢化・重度化に合わせて、ラジオ体操・歩行訓練を行うほか、散歩・リハビリ等により機能回復・維持への意欲を高めるためのあらゆる手段を講じていくことに努めた。
- (6) 行事
別紙年間スケジュールに沿って行事を実施した。
- (7) 自治会活動への支援
生活の質を利用者自らが高めるために組織された自治会の活動を支援した。

(8) 地域移行支援事業

- ① 救護施設居宅生活訓練事業を取り入れ、居宅生活への移行を支援した。
- ② 相談員（精神保健福祉士）を配置し、居宅生活訓練者へよりきめの細かいサービス提供に努めたほか、地域との連携強化を進めた。
- ③ 保護施設通所事業を取り入れ、居宅生活訓練修了者への継続的な支援、また、地域の生活困窮者への相談援助事業を行った。

居宅生活訓練事業の実績

	H29 4/1	H30 3/31	備 考
男	1 名	2 名	(H28.11.1) 1 名開始 (H29.12.1) 1 名開始
女	1 名	1 名	(H28.12.1) 1 名開始
計	2 名	3 名	

3 衛生管理

- (1) 年2回定期健康診断を行った。
- (2) 施設内外の清潔を保つため清掃・消毒・殺虫駆除等を行った。
- (3) 風邪の予防のため、手洗いとうがいの励行を促すと共に秋にインフルエンザ予防接種を本人又は家族の承諾を得て実施した。
- (4) 食事前の手洗い、手指消毒を指導した。
- (5) 浴槽の掃除は週1回以上行い、湯の張り替えをこまめに行った。残留塩素検査は必ず入浴前に行い、レジオネラ菌検査を年1回以上実施し、浴槽の衛生管理に努めた。
- (6) 上水道の一部に高架水槽を使用しているため、高架水槽の清掃並びに水質検査を年1回以上行った。

4 防災対策

- (1) 防火計画に基づいて避難訓練を実施すると共に防火器具・避難経路等の点検を行った。防火設備、消火設備並びに火災報知設備の保守点検を業者に委託し行った。
- (2) 漏電予防検査を業者に依頼し実施した。
- (3) 災害に備えて2日分の水・食糧の備蓄を給食業者に保管させるとともに、施設内でも1日分の水・食糧を備蓄した。

5 給食

- (1) 給食業務の外部委託に伴い、委託業者と密接なる連携を図った。また、委託業者とは定期的に打合せ会議を行った。
- (2) 年齢、身体的状況などを考慮し、栄養価は目標量を不足することのないようにした他、嗜好調査を実施し利用者それぞれに対応した食事を提供できるよう努力した。
- (3) 食中毒の発生を防止するため関係機関の指導に従い最善の措置を講じた。

6 実習生、ボランティア等の受け入れ

業務に支障のないことを前提にして下記の実習生を可能な限り受け入れ、社会福祉の人材育成並びに社会福祉体験実習の一翼を担った。

- (1) 社会福祉関係大学生及び社会福祉専門学校生
- (2) 中学生（体験学習）
- (2) 施設でボランティアを希望する者

受け入れ実績

受け入れ者区分	人 数
専門学校実習生	3名
短期大学実習生	1名
体験学習（中学生）	2名
ボランティア	15名

参考資料

①入所率（平成30年3月31日現在）

定員80名入所率	一割増88名入所率
100%	93.84%

②利用者の異動

（単位：人）

区 分	29年 4月1日	入寮（17名）			退 寮（17名）				30年 3月31日
		自宅	病院	ホームレス	入院	死亡	他施設	自立	
男	51	4	5	3	5	4	1	1	52
女	33	2	3	0	3	1	2	0	32
計	84	6	8	3	8	5	3	1	84

③第三者委員の面談における利用者からの意見要望件数

帰省・面 会・家族に 関すること	体調に関 すること	日常生活 に関する こと	同僚に関 すること	退寮に関 すること	食事に関 すること	外出に関 すること	職員に関 すること	特にな いが話した い
10件	10件	9件	9件	6件	6件	5件	4件	1件

④全体会議・自治会・意見箱からの意見要望件数

日常生活 に関する こと	同僚に関 すること	施設整備・備 品に関する こと	食事に関 すること	行事に関 すること	職員に関 すること	外出に関 すること	手伝いに関 すること
13件	8件	7件	7件	3件	3件	3件	1件

⑤施設内事故の件数

転倒	対人トラブル	洛薬	切傷・ 擦過傷	誤嚥	破損 ・紛失	服薬漏れ
167件	33件	33件	12件	11件	7件	6件

誤薬	無断外出	ライター持込 (喫煙者)	飲酒	自傷行為	救急搬送	骨折 (転倒による)
5件	4件	3件	3件	3件	2件	1件

⑥生活困窮者支援事業「ゆめのは」実績（平成29年4月～30年3月）

	支 援 内 容							計
	生活 相談	通院 同行	買物 同行	手帳等 各種手続	施設入所 相談	部屋の 整理	子育て 支援	
男	3	3	1	3	1	1	0	12
女	3	3	3	3	1	3	0	16
計	6	6	4	6	2	4	0	28

平成29年度 9件受付 6件支援 継続5件 支援合計11件

受付先：地区包括支援センター、障害福祉課経由包括、市社協、地域生活定着支援センター
年齢 37歳 ～ 82歳

⑦ホームレス等の受け入れ状況12名

H29年 4月1日	入 寮 (入所前居住地)			退 寮 (退所先)					H30年 3月31日
	刑務所	自宅	路上	市内 居住	(就労) 社宅	県外	病院	飲酒 退去	
1名	3名	6名	3名	7名	2名	1名	1名	1名	2名